

JOMON



Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan

JAPAN 2022



「北海道・北東北の縄文遺跡群」 世界遺産登録記念フォーラム

YouTube縄文遺跡群チャンネル オンライン配信 »



配信日時 令和4年1月30日(日) 13:30から

主催：縄文遺跡群世界遺産登録推進本部

(北海道 青森県 岩手県 秋田県 千歳市 伊達市 函館市 洞爺湖町 森町 青森市 弘前市 八戸市 つがる市 外ヶ浜町 七戸町 一戸町 鹿角市 北秋田市)

後援：朝日新聞社 北の縄文文化回廊づくり推進協議会

ごあいさつ



縄文遺跡群世界遺産登録推進本部長
青森県知事 **三村 申吾**

令和3年7月27日に開催された第44回世界遺産委員会拡大会合において、我が国最大級の集落遺跡である特別史跡三内丸山遺跡や大規模な記念物である特別史跡大湯環状列石をはじめとする北海道、岩手県、秋田県、青森県の17の史跡で構成された、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、念願の世界文化遺産に登録されました。

これまで御支援と御協力を賜りました関係者の皆様をはじめ、応援いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、採集・漁労・狩猟を生業としながら、1万年以上の長きにわたって諍いなく定住し、独特な文化を築き上げた先人たちの生活と精神文化を今に伝える、日本で初めての先史時代の世界遺産であり、我が国の歴史と文化の成り立ちを知る上で欠くことのできない重要な文化遺産です。

今後は、このかけがえのない遺産をしっかりと守り、次の世代に引き継いでいくとともに、その価値や魅力を国内外に積極的かつ分かりやすく発信しながら、北海道・北東北の4道県を訪れる人々により一層の感動を与えることができるよう、関係者の皆様と一体となって取り組んでいきます。

皆様におかれましては、このフォーラムを契機として、「世界の宝」となった縄文遺跡群に対する理解を一層深めていただくとともに、今後の保全と活用に向けて、さらなる御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

⑨ 史跡 入江・高砂貝塚
(入江貝塚)《北海道洞爺湖町》

⑮ 史跡 入江・高砂貝塚
(高砂貝塚)《北海道洞爺湖町》

③ 史跡 北黄金貝塚
《北海道伊達市》

(2) 史跡 鷲ノ木遺跡
《北海道森町》《関連資産》

⑬ 史跡 キウス周堤墓群
《北海道千歳市》

⑦ 史跡 大船遺跡
《北海道函館市》

② 史跡 垣ノ島遺跡
《北海道函館市》

① 史跡 大平山元遺跡
《青森県外ヶ浜町》

④ 史跡 田小屋野貝塚
《青森県つがる市》

⑯ 史跡 亀ヶ岡石器時代遺跡
《青森県つがる市》

⑭ 史跡 大森勝山遺跡
《青森県弘前市》

⑥ 特別史跡 三内丸山遺跡
《青森県青森市》

⑩ 史跡 小牧野遺跡
《青森県青森市》

⑤ 史跡 二ツ森貝塚
《青森県七戸町》

(1) 史跡 長七谷地貝塚
《青森県八戸市》《関連資産》

⑰ 史跡 是川石器時代遺跡
《青森県八戸市》

⑧ 史跡 御所野遺跡
《岩手県一戸町》

⑫ 特別史跡 大湯環状列石
《秋田県鹿角市》

⑪ 史跡 伊勢堂岱遺跡
《秋田県北秋田市》

「北海道・北東北の縄文遺跡群」

Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の 世界遺産一覧表への記載が 決定しました!!

令和3年7月27日、第44回世界遺産委員会拡大会合（中国福州市／オンライン開催）において、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産一覧表への記載が決定しました!!

長年にわたり、縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて御支援・御協力をいただきました多くの皆様、誠にありがとうございました。

はるか昔の縄文時代の人々の暮らしを現代に伝える遺跡群を、未来へと確実に伝え、地域の皆様や、全国の縄文ファン・遺跡ファンの皆様に愛される世界遺産となりますよう今後も取り組みを進めて参ります。

引き続き御支援・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記載内容

決定時刻： 日本時間 令和3年7月27日（火曜日）18時51分

名 称： Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan
（北海道・北東北の縄文遺跡群）

決議要旨： 「北海道・北東北の縄文遺跡群」を評価基準（iii）及び（v）の下に「記載」する。



世界遺産登録の歩み

2005(H17)年	・三村青森県知事が定例記者会見において、青森県内の縄文遺跡群の世界文化遺産登録推進を表明
2006(H18)年	・文化庁が暫定一覧表への記載は提案方式にすると表明 ・「青森県の縄文遺跡群」(青森県他)、「環状列石」(秋田県他)の提案書提出
2007(H19)年	・審議の結果、「青森県の縄文遺跡群」、「環状列石」は継続審となる ・ <u>北海道・北東北知事サミットにて、4道県で「北海道・北東北の縄文遺跡群」を共同提案することを確認、4道県知事が提案書を文化庁長官へ提出</u>
2008(H20)年	・「北の縄文回廊づくり推進協議会」発足 ・「北海道・北東北の縄文遺跡群」の暫定一覧表への記載決定
2009(H21)年	・1月5日 ユネスコの暫定一覧表に記載 ・ <u>縄文遺跡群世界遺産登録推進本部(本部長三村青森県知事)設置、平成27年度の世界遺産登録を目指す取組目標を決定</u>
2013(H25)年	・「北海道・北東北の縄文遺跡群」の推薦書原案提出、審議の結果、ユネスコへの推薦が見送られる ・「明治日本の産業革命遺産―九州・山口と関連遺産―」の推薦を決定 ・登録推進本部会議で取組方針を「直近の機会での推薦を目指す」に改訂
2014(H26)年	・審議の結果、ユネスコへの推薦が見送られる ・「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の推薦を決定
2015(H27)年	・推薦書案(文化庁の求めによる審査資料＝素案)を提出、審議の結果、ユネスコへの推薦が見送られる ・「「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」の推薦を決定
2016(H28)年	・推薦書案(素案)を文化庁に提出、審議の結果、ユネスコへの推薦が見送られる ・「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」推薦を取り下げ 文化審議会において「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」再度推薦決定 ・国立西洋美術館の登録決定
2017(H29)年	・推薦書案(素案)を文化庁に提出審議の結果、ユネスコへの推薦が見送られる
2018(H30)年	・推薦書案(素案)を文化庁に提出、審議の結果「 <u>北海道・北東北の縄文遺跡群</u> 」の推薦国内候補に選定 ・政府として自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の推薦決定、縄文遺跡群の推薦は先送りとなる
2019(R1)年	・再度「 <u>北海道・北東北の縄文遺跡群</u> 」の推薦国内候補に決定
2020(R2)年	・ <u>ユネスコへ推薦書提出、イコモス(国際記念物遺跡会議)による現地調査</u>
2021(R3)年	・5月26日 イコモスによる登録勧告 ・7月27日 世界遺産委員会にて登録が決議される

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産

史跡 太平山元遺跡

約15,000年前

青森県外ヶ浜町

図①



縄文時代のはじまりを示す遺跡

縄文時代開始直後の遺跡であり、旧石器時代の特徴をもつ石器群とともに、土器と石鏃が出土した。土器に付着した炭化物の年代測定の結果、15,000年以上前のものであることが明らかにされている。移動に適さない土器の出現は定住の開始を示し、遊動から定住へと生活が大きく変化したことを知る上で重要な遺跡である。

お問い合わせ

外ヶ浜町教育委員会 社会教育課

〒030-1393 青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田高銅屋44-2

TEL:0174-31-1233

史跡 垣ノ島遺跡

約9,000～3,000年前

北海道函館市

図②



居住域と墓域の分離を示す集落跡

太平洋をのぞむ段丘上に立地する集落跡。居住域と墓域が分離したことを示す集落である。竪穴建物からは漁網用の石鏃が出土し、漁労が活発に行われていたことがわかる。墓には、この地域に特徴的な幼児の足形を押し付けた粘土版が副葬される例があるなど、当時の葬制や精神性を示す。

お問い合わせ

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課

〒040-8666 北海道函館市東雲町4-13

TEL:0138-21-3563

史跡 北黄金貝塚

7,000～5,500年前

北海道伊達市

図③



内浦湾に面した 大規模な貝塚を伴う集落跡

内浦湾をのぞむ丘陵上に立地する貝塚を伴う集落跡。貝塚からは、貝殻や魚骨、動物の骨や角でつくられた骨角器などが出土し、海進・海退などの環境変化に適応しながら漁労を中心とした生業が行われていたことを示す。低地の水場遺構では、すり石や石皿などの石器の廃棄に伴う祭祀が行われていたと考えられている。

お問い合わせ

伊達市教育委員会 生涯学習課文化財係

〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20-1

TEL:0142-23-3331

史跡 田小屋野貝塚

約6,000～4,000年前

青森県つがる市

図④



古十三湖に面した貝塚を伴う集落跡

海進期に形成された古十三湖に面した貝塚を伴う集落跡。集落には、竪穴建物、墓、貝塚、貯蔵穴など、多様な施設が配置されている。貝塚からは、汽水域に棲息するヤマトシジミを主体に、魚骨や海獣骨、装身具であるベンケイガイ製の貝輪の未製品が多数出土し、内湾地域における生業や集落の様子を示す重要な遺跡である。

お問い合わせ

つがる市教育委員会 社会教育文化課
〒038-3138 青森県つがる市木造若緑52
TEL:0173-49-1194

史跡 ニツ森貝塚

約5,500～4,000年前

青森県七戸町

図⑤



海水性及び汽水性の貝塚が環境の変化を表す集落跡

太平洋に続く小川原湖に面した段丘上に立地する大規模な貝塚を伴う集落跡。貝塚には、下層にハマグリやマガキなどの海水性、上層にヤマトシジミなどの汽水性の貝殻が堆積し、海進・海退による環境変化への適応を示す。動物の骨や角でつくられた骨角器も多数出土し、なかでも鹿角製櫛は高い精神性と加工技術を伝える。

お問い合わせ

七戸町教育委員会 世界遺産対策室
〒039-2592 青森県上北郡七戸町字七戸31-2
TEL:0176-58-5530

特別史跡 三内丸山遺跡

約5,900～4,200年前

青森県青森市

図⑥



多様な施設で構成される大規模な拠点集落

陸奥湾をのぞむ段丘上に立地する大規模な拠点集落。集落は、竪穴建物、墓、貯蔵穴、掘立柱建物、盛土など多様な施設で構成される。膨大な土器や石器、日本最多の2000点を超える土偶などの祭祀遺物、多種多様な動物骨や魚骨、クリやクルミなどの堅果類などから、内湾地域における生業と祭祀・儀礼の多様性を示す重要な遺跡である。

お問い合わせ

三内丸山遺跡センター
〒038-0031 青森県青森市三内字丸山305
TEL:017-766-8282

史跡 大船遺跡

約5,500～4,000年前

北海道函館市

図⑦



祭祀場が発達した拠点集落

太平洋をのぞむ段丘上に立地する拠点集落。深さ2mを超える竪穴建物や貯蔵穴、墓、盛土などがある。祭祀場である盛土には、土器・石器などが累積し、祭祀・儀礼が継続して行われていたことを示す。クジラ、マグロなどの海獣骨や魚骨、クリやクルミなどの堅果類も出土し、沿岸地域における生業と精神文化を示す遺跡である。

お問い合わせ

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課
〒040-8666 北海道函館市東雲町4-13
TEL:0138-21-3563

史跡 御所野遺跡

約4,500～4,000年前

岩手県一戸町

図⑧



墓域と祭祀場を中心とした拠点集落

馬淵川沿いの段丘上に立地する拠点集落。東西に長い台地の中央に配石遺構を伴う墓域、祭祀場である盛土が形成され、その周囲に大型・中型・小型の竪穴建物が配置されている。祭祀場である盛土からは大量の土器や石器とともに、焼けた動物骨や堅果類などが出土し、火を用いた祭祀が繰り返し行われたことを伝える。

お問い合わせ

御所野縄文博物館
〒028-5316 岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野2
TEL:0195-32-2652

史跡 入江貝塚

約3,800年前

北海道洞爺湖町

図⑨



共同の祭祀場や墓地を支えた集落跡

内浦湾を望む段丘上にある貝塚を伴う集落跡。貝塚からは貝殻・魚骨・海獣骨のほか、動物の骨や角を加工した釣針や鉤などが出土し、漁労を中心とした生業を示す。墓域からは、幼い頃に筋萎縮症に罹患した成人の人骨が見つかり、集落内で手厚い介護を受けながら生きながらえたことを伝える。

お問い合わせ

洞爺湖町教育委員会 社会教育課
〒049-5692 北海道虻田郡洞爺湖町栄町58
TEL:0142-74-3010

史跡 小牧野遺跡

約4,000年前

青森県青森市

図⑩



複雑な配石構造を持つ 大規模な環状列石

八甲田山西麓に広がる台地上に立地する環状列石を主体とする祭祀遺跡。環状列石は、中央帯・内帯・外帯の三重となり、その周りに一部四重となる列石もみられ、全体で直径55mになる。内帯と外帯は楕円形の石を縦・横に配置して円環が形成されている。土偶やミニチュア土器、三角形岩版などの祭祀遺物が多数出土している。

お問い合わせ

青森市教育委員会 文化財課

〒030-0801 青森県青森市新町1-3-7

TEL:017-718-1392

史跡 伊勢堂岱遺跡

約4,000～3,700年前

秋田県北秋田市

図⑪



4つの環状列石が集中した祭祀遺跡

米代川近くの段丘上に立地する環状列石を主体とする祭祀遺跡。遠方の山並みが一望できる段丘北西端に4つの環状列石が隣接して配置されている。いずれも直径30m以上で、最大のもは直径約45mに及ぶ。環状列石の周囲からは、土偶や動物形土製品、鐙形土製品、岩版、三脚石器、石剣などの祭祀遺物が多数出土している。

お問い合わせ

北秋田市教育委員会 生涯学習課

〒018-3312 秋田県北秋田市花園町10-5

TEL:0186-62-6618

特別史跡 大湯環状列石

約4,000～3,500年前

秋田県鹿角市

図⑫



規則的な構造を示す2つの環状列石

大湯川沿いの段丘上に立地する環状列石を主体とする祭祀遺跡。万座と野中堂の2つの環状列石は川原石を組み合わせた配石遺構によって二重の円環が形成され、それぞれに「時計状組石」が配置されている。環状列石の周囲には掘立柱建物が同心円状に配置され、土偶や鐙形土製品、石刀等などの祭祀遺物が数多く出土している。

お問い合わせ

大湯ストーンサークル館

〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字万座45

TEL:0186-37-3822

史跡 キウス周堤墓群

約 3,200年前

北海道千歳市

図 13



高い土手で囲まれた共同墓地

石狩低地帯をのぞむ緩やかな斜面に立地する大規模な共同墓地。周堤墓は、円形の竖穴を掘り、掘った土を周囲に積み上げて構築され、その内側に複数の墓が配置されている。9基の周堤墓が群集し、最大のものは外径83mで、高さ4.7mに達する。独特な墓制であり、当時の高い精神性と社会の複雑化を示す重要な遺跡である。

お問い合わせ

千歳市埋蔵文化財センター

〒066-0001 北海道千歳市長都42-1

TEL:0123-24-4210

史跡 大森勝山遺跡

約3,000年前

青森県弘前市

図 14



岩木山麓につくられた 大規模な環状列石

岩木山麓の丘陵上に立地する大規模な環状列石を伴う祭祀遺跡。環状列石は、盛土した円丘の縁辺部に77基の組石を配置し、長径48.5m、短径39.1mのやや楕円形に造られている。環状列石及びその周辺からは、円盤状石製品が約250点出土し、環状列石に関連する祭祀・儀礼用の道具と考えられている。

お問い合わせ

弘前市教育委員会 文化財課

〒036-1393 青森県弘前市賀田1-1-1

TEL:0172-82-1642

史跡 高砂貝塚

約3,000年前

北海道洞爺湖町

図 15



内浦湾に面した共同墓地

内浦湾をのぞむ低地に立地する共同墓地。土坑墓と配石遺構からなる墓域、貝塚が配置されている。土坑墓には、土器や石器、石製品などの副葬品をとめない、ベンガラが散布されている。このほか、抜歯の痕跡が認められる例や胎児骨を伴う妊産婦の人骨なども確認され、当時の葬送の様子を伝える。

お問い合わせ

洞爺湖町教育委員会 社会教育課

〒049-5692 北海道虻田郡洞爺湖町栄町58

TEL:0142-74-3010

史跡 亀ヶ岡石器時代遺跡

約3,000～2,400年前

青森県つがる市

図⑩



芸術性豊かな土偶や 多彩な副葬品が出土した共同墓地

海進期に形成された内湾である古十三湖に面した大規模な共同墓地。台地上に多数の墓がみられ、その周囲の低湿地には捨て場が形成され、漆塗り土器や藍胎漆器、玉類などが多数出土している。なかでも大型土偶（国指定重要文化財）は、その眼部の表現が「遮光器土偶」の名称の起こりとなったことで知られている。

お問い合わせ

つがる市教育委員会 社会教育文化課

〒038-3138 青森県つがる市木造若緑52

TEL:0173-49-1194

史跡 是川石器時代遺跡

約3,000～2,400年前

青森県八戸市

図⑪



竪穴建物・土坑墓・水場・捨て場 などを伴う集落跡

中居、一王寺、堀田の3つの遺跡からなる。なかでも、中居遺跡は多様な施設を伴う集落であり、土器や土偶のほか、漆塗りの弓や櫛などの漆製品が多数出土している。狩猟具や漁労具、クリ・トチなどの堅果類、サケ・マスの魚骨、貯木や堅果類の加工を行ったと推定される水場など、生業の内容を知ることができる。

お問い合わせ

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

〒031-0023 青森県八戸市是川字横山1

TEL:0178-38-9511

関連資産

史跡 長七谷地貝塚

約8,000年前

青森県八戸市

図(1)

縄文海進期の貝塚を伴う集落跡



関連資産

史跡 鷺ノ木遺跡

約4,000年前

北海道森町

図(2)

北海道最大規模の環状列石



登録記念講演

縄文は世界史の中へ -世界遺産になった 「北海道・北東北の縄文遺跡群」-

縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委員会委員長

早稲田大学名誉教授 菊池徹夫

私たちの「縄文」は、コロナ禍の昨年夏、ついに世界遺産に登録されました。

ここまでの長い道のり、文化庁と関係4道県の方々のご苦労は大変なものでした。心から敬意を表します。

ただ、私はこの間、一度もこの企ての成功を疑ったことはありませんでした。というのも、「縄文」の世界史的価値や意義を信じているからです。むしろ時間がかっただけ、周到な準備ができたといってよいかもしれません。そして、私たちは今やっと、いわば「縄文」を世界へお披露目するという、与えられた役割を何とか果たしました。これからは多くの若い方々によってさらに研究が深められ、いよいよ「世界史の中のJOMON」を確立して頂きたい、と願っています。

登録まで、少なからず問題もありました。例えば、「縄文」が純粋に考古学的な、しかも日本で初めて文字記録を伴わない先史時代の遺産であること。また、縄文文化に対する偏見や欧米の伝統的歴史観からの批判。それに、なぜこの地域なの？ なぜこの17遺跡だけ？ といった問いは、文字どおり「よくある質問」でした。

さて登録がなったいま、世界遺産とは、そして「縄文」とは、ということを私は改めて考えています。要するに、世界遺産の「顕著な普遍的価値」とは「縄文」の場合いったい何なのか？

「縄文」が、本格的な農耕・牧畜なく狩猟採集中心で1万年もの長期間、極めて特色ある定住生活を継続し、さらに生物多様性に恵まれた自然環境に適応しつつ持続可能な社会を維持したこと、などがとりあえず、それへの回答です。

さらに、人類史の多様性を示唆しえたこと、環境問題や地球温暖化といった今日的課題に寄与しうること、などを今回の登録の意義として挙げ得るでしょうか。

今後の課題も少なくありませんが、列島の基層文化としての「縄文」を東アジア史の中でどうとらえ直していくか、という課題のみ、ここでは挙げておきます。

なお、今回登録の対象となったのは、北海道・北東北の17の遺跡群ですが、ここではあえて、ただ「縄文」と記すことで、表記の繁雑を避け、それらが象徴する縄文文化・時代全体をも示唆することとしました。



三内丸山遺跡のイコモス現地調査の様子



大湯環状列石(万座環状列石)

登録記念講演

縄文遺跡群 世界遺産登録の意義

縄文遺跡群世界遺産登録推進専門委員会委員

筑波大学名誉教授 稲葉信子

世界遺産に登録されるとは、どういうことなのでしょう。

地元のみなさんにとっての縄文遺跡群、世界の人々にとっての縄文遺跡群 — 世界遺産になった縄文遺跡群には、国際社会の中での新たな顔と役割が加わることになりました。

世界遺産の数は文化遺産、自然遺産、そして複合遺産を合わせて今1,154あります。この数が意味しているもの。それは、地球という一つの自然と、そこに生きる様々な動植物、その他の生物、そしてわれわれ人間、1,154の数はそのすべての存在のこれまでの歴史と現在を語る、大切な証拠の集合体です。世界遺産の多くが富に支えられた大きな文明のものであるなかで、狩猟、採集、漁労で生きていた人の歴史を語るものはそう多くはありません。アジアの東端のこの地域で、農業が広まる前に人がどんな生活をしてたのか。それもとても大切な人類の歴史の1ページです。縄文遺跡群が世界遺産に加わったことで、足りなかったところがまた埋まることになりました。

世界遺産とは地球と人類の歴史の教科書。どんな言葉なら、世界のあらゆる地域の人々に縄文遺跡群の声が届くのでしょうか。地元の皆さん方が伝えたいと思っていること、世界の人々が聞きたいと思っていること。それは同じかもしれませんが、違うかもしれません。訪れる人々をどのように迎えて、伝えていくか、地元のみなさんでこれから考えていっていただきたいことのひとつです。

世界遺産になったことで、縄文遺跡群は世界に直接発信していく力を得ることになりました。これから世界の多くの人々の目にとまる機会も増えていきます。

世界の人に知られていくことは素晴らしいことですが、しかしそれと同時に世界遺産としての責任が生まれたことも、忘れないでいただきたいと思います。世界遺産には、遺産保護の最高のモデルとしての重要な役割があります。確実に保存していくことはもちろん、それぞれの現場を通して、地球環境の保護と持続可能な社会の達成に貢献していくことも求められています。そして日本ならではの蓄積を、貧困や紛争で苦しんでいる国々の世界遺産の保全に役立てていっていただきたい。そのように願っています。



世界遺産ネパール・バクタプールの町



世界遺産トーゴ・クータマクーの村



世界遺産アフガニスタン・バミヤーン遺跡

登録記念講演

世界遺産の魅力と可能性

文化庁文化資源活用課

文化財調査官 鈴木地平

世界遺産の魅力って、何でしょうか？

世界遺産を通して人や地球の営みを知れることかもしれません。あるいは、おらが宝が世界の宝になることかもしれません。もしかすると、観光客がたくさん来ることに魅力を感じる向きもおられましょう。いずれも正解だと思います。

ところで、今年は世界遺産条約の成立50周年ですが、登録される遺産もだんだん変わってきました。かつては豪華絢爛な教会建築や巨大規模の遺跡など「エリート」遺産が登録の中心でしたが、近ごろは文化的景観や先住民の文化、ローカルな信仰に関わる遺産など、より生活に密着した文化まで登録されています。遺産は特別なものではなく身近なものであり、決して普段の生活と切り離されるものではないと言えます。

そうした世界遺産を、地域の課題解決に役立てているところもあります。

2018年に世界遺産登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」では、潜伏キリシタンがどのように暮らし、どのようなコミュニティを形成して信仰を維持・継承したのかということを示す集落が資産となっています。そのため、遺産を守るということはすなわち集落生活を守ることと同義なのですが、やはり少子化・高齢化・過疎化に悩まれています。そこで、世界遺産をきっかけに、教育的観点、経済的観点、移住者の獲得、そして生活の質的向上というそれぞれの側面を通じてコミュニティの力を強化し、地域の持続性につながる取組が展開されています。

長年の取組の末、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が昨年世界遺産に登録されました。リンゴ農園に例えると、十数年もの間、手塩にかけてリンゴの木を育ててきたわけですね。これからは新たな苗木も植えつつ（調査研究の継続。これも大事）、そろそろ実の収穫に入ってもよいと思います。ここでいう「実」とは、例えば経済効果、世界遺産を有する誇り（シビックプライド）、地域課題の解決などいろいろ考えられましょう。このとき、縄文遺跡群に強い興味を抱いている人々だけではなく、世界遺産なんか関係ないと思っている人たちまでどう巻き込むかが重要だと考えます。



【崎津集落】地元の料理を披露する（熊本県天草市）



【御所野遺跡】愛護少年団と伊勢堂岱ガイドとの交流（岩手県一戸町）

登録記念報告

世界遺産登録の歩みと 縄文遺跡群の未来

縄文遺跡群世界遺産登録推進会議座長

青森県企画政策部世界文化遺産登録専門監 岡田康博

世界遺産登録への歩み

2021(令和3)年7月27日、第44回世界遺産委員会拡大大会において青森県、北海道、岩手県、秋田県に所在する17の縄文遺跡群で構成する「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録が実現した(正式名称はJomon Prehistoric Sites in Northern Japan)。2009(平成21)年に我が国の正式な候補である暫定一覧表に追加記載され、2019(平成31)年にはユネスコへの推薦が決定した。その後イコモス(国際記念物遺跡会議)の現地調査等を経て、2021年4月には登録が適当とのイコモス勧告が出されていた。登録を達成したものの、その道のりは厳しく多くの時間を要することとなった。(4ページの表参照)

世界遺産での決議内容

北海道・北東北の縄文遺跡群は、先史時代の人々の農耕文化以前の生活の在り方と複雑な精神性を示す17の考古遺跡から構成されている。北海道南部及び津軽海峡を挟んだ東北地域に所在するこのシリアルプロパティは、紀元前13,000年から紀元前400年までの間に、北東アジアで発展した狩猟・漁労・採集社会による定住の開始、発展、成熟を示している。

評価基準Ⅲについて、1年以上もの長期間継続した狩猟・漁労・採集を基盤とした、世界的にも稀な定住社会とそこで育まれた精緻で複雑な精神文化を伝える類まれな物証である、とした。評価基準Ⅴについて、定住の開始からその後の発展、最終的な成熟に至るまでの、集落の定住の在り方と土地利用の顕著な見本である、とした。完全性・真実性：構成資産の範囲は個々で適切であり、全体においても集落、儀礼の場や、立地や環境を示す土地形態や遺跡等の全ての重要な考古遺構が含まれており、その位置、形状・意匠、材料・材質、用途・機能、伝統・技能、精神性・完成の点で高い真実性を保持しており、遺構の殆どは何千年間、手付かずのまま地下に保存され、資産の顕著な普遍的価値を確実にかつ虚偽なく伝えている、とした。

遺跡群の未来

世界遺産は登録でもって終わりではない。未来永劫に保存と活用を責務を負うことのスタートでもあり、以下の点について特に留意しなければならない。

- ・世界遺産としての価値をわかりやすく伝え、継続して発信すること
- ・世界遺産としての品格を忘れず、それぞれの遺跡の状況に応じた適切な保存を進め、積極的な公開、活用を図ること。
- ・発掘調査や研究をさらに進め、個々の遺跡および遺跡群全体の価値を高めること

おわりにー縄文ファンの皆様へ

遺跡の価値や魅力は現地で理解できることも少なくないので、是非とも縄文遺跡を訪ねてはいかがでしょうか。遺跡でお待ちしております。登録へのご支援に感謝申し上げます。



三内丸山遺跡の発掘調査公開



亀ヶ岡遺跡の発掘調査

Program

プログラム

開会

主催者挨拶

縄文遺跡群世界遺産登録推進本部長

青森県知事 **三村申吾**

講演

縄文は世界史の中へ

-世界遺産になった「北海道・北東北の縄文遺跡群」-

縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委員会委員長

早稲田大学名誉教授 **菊池徹夫**

講演

縄文遺跡群世界遺産登録の意義

縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委員会委員

筑波大学名誉教授 **稲葉信子**

講演

世界遺産の魅力と可能性

文化庁文化資源活用課 文化財調査官 **鈴木地平**

報告

世界遺産登録の歩みと 縄文遺跡群の未来

縄文遺跡群世界遺産登録推進会議座長

青森県企画政策部世界文化遺産登録専門監 **岡田康博**

閉会